

授業評価・授業研究報告

美術教育講座・福井一真

令和3年度2年次後学期（火曜日2限）の教職科目 B 美術科教育法 2 についての授業評価・授業研究報告を行う。担当者：福井一真／登録学生数4名。

1 授業の目的および概要について

本授業は主に美術科教育法1で学修した内容を基盤として、中学校美術科および高等学校芸術科美術の学習指導要領や教科書の内容を理解し、学習指導計画を立てるとともに、中等教育に必要な題材を設定する力を身につけることを目的としている。

授業の到達目標は下記の通りである。

- (1) 中学校美術科および高等学校学習指導要領芸術科美術の学習指導要領における各学年及び各領域の目標や内容を理解することができる。
- (2) 中学校美術科および高等学校芸術科美術の年間指導計画を練ることができる。
- (3) 題材設定の方法を理解し、題材研究において検討した内容をプレゼンテーションすることができる。

2 授業を行う上での工夫

本授業は題材についての理解を深めるために、学習指導要領や教科書の解説だけでなく、実際に行われている題材を取り上げ、実践と省察を繰り返すことによって題材への理解や分析する視点を身につけるようにしている。実践と理論の往還から題材への新たな気づきを促すような取り組みを中心に行った。

3 授業アンケートの結果

授業アンケート（令和4年2月8日実施）は、3名の回答を得ることができた。

3-1 授業全体について

【総合的にこの授業は満足だった】という設問に対して、「とてもあてはまる」3名、【全体的にこの授業を真剣に受けた。】という設問に対しては、「とてもあてはまる」3名という回答を得た。この結果から、授業全体を通して、学生が積極的に授業に取り組んでいたと判断することができる。

【本授業の内容は教育実習や今後、教師になってからも役に立つ】という設問では「とてもあてはまる」3名という回答を得た。さらに、【本授業を受講する

前と受講した後で、美術科に対する印象（考え方が変化した】という設問では、「とてもあてはまる」2名、「まあまああてはまる」1名という結果を得た。この結果から、本授業の到達目標を概ね達成できたものと判断できるのではないだろうか。

3-2 地域社会を核とした教育と研究のつながり

近年では、ポスター制作題材に関する論文を執筆した。それはポスター制作が夏休みの宿題などにあてがわれ、その題材の良さを生かし切れていないという実態があるためである。このように従来実施されてきた美術科の題材について、その題材に対する理解が深められず、授業が作品を制作するだけの表層的なものになってしまっているのは大きな問題である。そこで、本授業では題材への理解や分析する視点を培うことによって、美術科の授業を実施する上で必要な資質を育成していくことになるのではないかと考えた。題材の設定は生徒の実態に根ざして構築していくものである。題材への理解を深め、教員としての資質を培うことは、その地域の特性を活かした題材の提案・実施をするための力を養うことにつながるだろう。

4 成果と課題

【本授業の改善点】についての回答は、特に得られなかったが、【本授業の良いと思う点】については以下のような記述がみられた。

- ・自分の気づかない点にアドバイスをもらいながら、話し合いの場で新たな価値観や発見を共有できる点。
- ・指導案の作り方になれる。
- ・しっかり話し合いの時間があって自分の授業計画について見直すことができた。

これらの意見から、本授業の目的でもある、学習指導計画を立てるとともに、中等教育に必要な題材を設定する力を身につけるなどの目標が達成されたと考えられる。とはいえ、受講生数が少ない講義になるので、模擬授業等の実施の工夫を今後も検討する必要があるだろう。